

立岡脩二市長が初登庁

みんな元気で、なかよく、
しあわせ福祉都市を
つくろう



歓迎の花束を手にする立岡市長

瀬戸内市の市政の舵を取る瀬戸内市長選挙が12月5日、市内19投票所で行われ、開票の結果、立岡脩二さんが初代市長に当選しました。

6日、瀬戸内市役所本庁舎に初登庁した立岡市長は、大勢の市職員に拍手で迎えられ、女性職員から歓迎の花束を受け取りました。その後、就任式では、「合併協議で積み残した諸問題を解決し、全国に発信できる『しあわせ福祉都市』を築いていきましょう」とあいさつし、初代市長としての決意を語りました。

開票結果 (敬称略)

候補者氏名	得票数
山本 秀一	6,559
清家 隆宣	6,183
立岡 脩二	当 8,197

たつおか しゅうじ
立岡 脩二市長
(64歳・邑久町尾張)
平成12年3月
から邑久町長
を務めた

幸せ実感できる瀬戸内市を目指して

瀬戸内市長 立岡脩二

12月6日、瀬戸内市の初代市長に就任させていただきました。改めてその重責に身の引き締まる思いです。よろしくお願いいたします。

私は選挙戦を通じて「みんな元気で、なかよく(協力して)まちづくり、人づくりをしていきましょう」と訴えました。

地方自治の大きな目標は、住民の「幸せ(福祉)」づくりです。考えてみますと、「幸せ」感は、人によって千差万別です。しかし、だれにも共通して言えることは、まず「元気」であること、「なかのよい」ことではないでしょうか。

人が元気で、なかのよいこと

子どもからお年寄りまで、男性も女性も、健常者も障害のある人も、みんな元気でなかのよいこと。みんな生き生きと学び、働き、協力し、さらには安らぎと喜びを分かち合える人が住む都市(まち)。

まちが元気で自然となかのよい(共存)こと

海・山・川・平野、豊かな自然環境

と共存し、歴史・芸術・文化の薫り高い都市(まち)。また、全国に開かれ、大勢の人や物・情報が行き交い、にぎわいのある都市(まち)。

産業が元気でなかのよい(バランス)こと

恵まれた自然と豊かな経験を有する農業・漁業が、消費者のニーズに合った産物を持続的に提供し、高い付加価値と競争力をもつこと。一つの業種に集中せずバランスよく工場が立地し、商工観光が元気で雇用の確保や若者の定住ができる都市(まち)。

市役所(行政)が元気でなかのよい(協働)こと

地方が自分で責任を持ち、自分で決定していく時代です。地域の独自性を生かした政策を創造し、実行していくと同時に住民や企業、大学などと協働していきます。市役所は、住民のサービスセンターとしての役割を果たすとともに、職員は常に自己啓発に努め、積極果敢に行財政改革に取り組むことが必要です。

重点プロジェクト計画・検討からスタート

重点プロジェクトは、新市の建設計画で約100以上の政策が立てられている中で、特に重点を置いて取り組むものです。

初年度は、計画や検討するところからスタートします。まず、市の総合振興計画と行財政改革大綱の作成です。いずれも経費やタイムスケジュールが決められたものでなくてはなりません。

○健やかに暮らせるプロジェクト

- ・元気高齢者づくりのための介護予防施設などの充実とソフト事業
- ・公立病院などの今後のあり方についての検討
- ・子育て支援センターの整備
- ・知的障害者厚生施設の整備

○ゆとりと潤いのあるプロジェクト

- ・公共下水道・農業集落排水の整備
- ・南北幹線道路のルートの検討
- ・CATVや無線アクセシシステムなどラストワンマイルの導入検討
- ・スポーツ振興計画の策定とスポーツ施設の充実(スポーツ立市)

○輝きのまちプロジェクト

- ・生涯学習センター整備計画の検討
- ・観光資源のネットワークや観光機能の充実強化(交流人口100万人計画)
- ・合併市町村振興基金事業(新規イベント事業など)
- ・JR各駅周辺の整備計画

○教育関係

- ・生命を大切にする教育を瀬戸内市の教育の基本とし、モラルの高い人づくりをする
- ・国際交流や国際貢献を通じ、視野の広い国際感覚を養う

そのほか、新市にかける夢を話し合う地域懇談会(仮称)、市民の提案を政策に取り入れていくシステム作り、男女共同参画・条例策定・文化芸術の振興など、新市のスタートとして取り組むべきものはたくさんあります。市民の皆さんと話し合い、考え、共に行動し、元気で清潔で思いやりのある市政を実現していきたいと考えています。みんな元気で、なかよく、幸せが実感できる瀬戸内市を目指して頑張ります。